

平成 24 年度幼児に関する歯科保健行動調査結果概要

1. 目的

宮城県では、歯と口腔の健康づくりを推進するため、平成 23 年 10 月に宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画を策定し、ライフステージごとに、達成指標を設定しており、乳幼児期の達成指標としては、① 3 歳児の一人平均むし歯数、② 3 歳児におけるむし歯のない人の割合、③ 3 歳児までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある人の割合、④ 3 歳児の間食として甘味食品・飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣を持つ人の割合の 4 つを設定している。

これらの指標と、県民の歯と口腔の健康状況を把握するため、宮城県が県内各市町村の協力を得て、平成 24 年 8 月から 11 月までの間に実施する 3 歳児健康診査時に保護者に対するアンケート調査を実施した。

2. 実施主体 宮城県

3. 調査対象 平成 24 年 8 月から 11 月までの間に 3 歳児健康診査を受健した保護者

4. 調査票の配布方法

- ① 県から各市町村に調査票を送付。
- ② 市町村が 3 歳児健診時に保護者へ配布。

5. 回収方法

- ① 3 歳児健診時に保護者から回収。市町村担当者記入欄に記入。
- ② 市町村から保健所へ送付。保健所で管内分を集計後、健康推進課へ送付。

6. 調査結果

(1) 協力人数（率）について

調査時の 3 歳児歯科健康診査の受診者数は 1,000 人で、そのうち調査の回答をいただいたのは、全体で 794 人（79.4%）、沿岸部 367 人（80.3%）、内陸部 427 人（78.6%）であった。

地区		3 歳児 歯科健診 受診者数	回答 人数	回答率 (%)	処置 歯数 (本)	未処置 歯数 (本)	有病者 率 (%)	1 人あたり むし歯本数 (本)
沿岸部	北部	145	137	94.5	37	247	41.4	1.96
	中央	109	90	82.6	17	50	22.9	0.61
	南部	97	92	94.8	32	97	26.8	1.33
	仙台	106	48	45.3	14	117	27.4	1.24
	小計	457	367	80.3	100	511	30.6	1.34
内陸部	北部	250	219	87.6	52	282	32.0	1.34
	南部	163	137	84.0	39	197	33.7	1.45
	仙台	130	71	54.6	75	62	23.8	1.05
	小計	543	427	78.6	166	541	30.6	1.30
合計		1,000	794	79.4	266	1,052	30.6	1.32

(2) むし歯の有病者率及び1人あたりのむし歯本数について

むし歯の有病者率と1人あたりのむし歯本数は、全体で30.6%, 1.32本であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部中央の22.9%, 0.61本、多いのは沿岸部北部の41.4%, 1.96本であった。

(3) 歯科保健行動について

① 歯みがき剤の使用状況について

歯みがき剤を使用していると回答したのは、全体で81.5%であり、地区別にみると最も少ないのは内陸部南部の76.6%, 多いのは沿岸部仙台の91.7%であった。

② フッ化物洗口について

フッ化物洗口をしたことがあると回答したのは、全体で17.5%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部南部の12.0%, 多いのは沿岸部仙台の24.4%であった。

③ フッ化物塗布について

フッ化物塗布をしたことがあると回答したのは、全体で72.5%であり、地区別にみると最も少ないのは内陸部仙台の52.1%, 多いのは沿岸部中央の80.0%であった。

④ シーラントについて

シーラントをしたことがあると回答したのは、全体で8.2%であり、地区別にみると最も少ないのは内陸部北部の4.2%, 多いのは沿岸部南部の13.0%であった。

⑤ 定期受診について

定期的に受診していると回答したのは、全体で29.7%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部北部23.4%, 多いのは内陸部仙台の39.4%であった

地区		歯みがき剤使用		フッ化物洗口実施		フッ化物塗布実施		シーラント実施		定期的受診している	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
沿岸部	北部	113	82.5	23	16.8	104	75.9	7	5.1	32	23.4
	中央	76	84.4	22	24.4	72	80.0	6	6.7	32	35.6
	南部	74	80.4	11	12.0	59	64.1	12	13.0	24	26.1
	仙台	44	91.4	10	20.8	27	56.3	2	4.2	16	33.3
	小計	307	83.7	66	18.0	262	71.4	27	7.4	104	28.3
内陸部	北部	172	78.5	35	16.0	169	77.2	12	5.5	65	29.7
	南部	105	76.6	23	16.8	108	78.8	17	12.4	39	28.5
	仙台	63	88.7	15	21.1	37	52.1	9	12.7	28	39.4
	小計	340	79.6	73	17.1	314	73.5	38	8.9	132	30.9
合計		647	81.5	139	17.5	576	72.5	65	8.2	236	29.7

(参考)

本調査は、各市町村の3歳児健康診査のうち1回のみ実施しているため、市町村により対象人数に差があることから、市町村ごとに集計・分析するのではなく、地域別に分けて分析することにした。

その地区割りは以下のとおり。

	地区別	管轄保健所	該当区・市町村
1	沿岸部	北部	気仙沼市・石巻市 本吉郡・牡鹿郡
2		中央	塩釜
3		南部	岩沼支所
4		仙台	仙台市
5	内陸部	北部	登米・栗原 大崎・黒川支所
6		南部	仙南
7		仙台	仙台市
			大崎市・登米市・栗原市 加美郡・遠田郡・黒川郡 白石市・角田市 柴田郡・刈田郡・伊具郡 青葉区・太白区・泉区

(4) 間食について

① 間食の回数について

間食の回数について、最も多かったのは2回の45.7%であった。3回以上間食しているのは、全体で31.0%であり、地区別にみると最も少ないのは沿岸部中央の18.9%、多いのは沿岸部北部の38.7%であった。

② 間食に注意している人について

間食に注意していると回答したのは、全体で75.3%であり、地区別にみると少ないのは沿岸部北部の67.2%、多いのは内陸部北部の81.3%であった。

地区	0回		1回		2回		3回以上		間食に注意している		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
沿岸部	北部	3	2.2	20	14.6	60	43.8	53	38.7	92	67.2
	中央	0	0.0	18	20.0	49	54.4	17	18.9	69	76.7
	南部	0	0.0	27	29.3	38	41.3	23	25.0	71	77.2
	仙台	0	0.0	9	18.8	24	50.0	13	27.1	38	79.2
	小計	3	0.8	74	20.2	171	46.6	106	28.9	270	73.6
内陸部	北部	2	0.9	44	20.1	105	47.9	68	31.1	178	81.3
	南部	1	0.7	15	10.9	63	46.0	52	38.0	95	69.3
	仙台	0	0.0	23	32.4	24	33.8	20	28.2	55	77.5
	小計	3	0.7	82	19.2	192	45.0	140	32.8	328	76.8
合計	6	0.8	156	19.6	363	45.7	246	31.0	598	75.3	

(5) 指しゃぶり等の習癖について

① 指しゃぶりについて

震災前から指しゃぶりをしていると回答したのは、全体で16.5%であり、震災後は16.4%、調査時は14.7%と徐々に減っていた。

地区	震災前 あり		震災後 あり		調査時 あり		
	人	%	人	%	人	%	
沿岸部	北部	16	11.7	17	12.4	12	8.8
	中央	13	14.4	12	13.3	13	14.4
	南部	15	16.3	15	16.3	10	10.9
	仙台	16	33.3	16	33.3	14	29.2
	小計	60	16.3	60	16.3	49	13.4
内陸部	北部	39	17.8	35	16.0	37	16.9
	南部	24	17.5	27	19.7	25	18.2
	仙台	8	11.3	8	11.3	6	8.5
	小計	71	16.6	70	16.4	68	15.9
合計	131	16.5	130	16.4	117	14.7	

② 爪かみについて

震災前から爪かみをしていると回答したのは、全体で 6.3%であり、震災後は 10.1%、調査時は 11.8%と徐々に増えていた。地区別にみると、震災前に少なかったのは沿岸部北部の 2.9%で、多かったのが沿岸部南部の 12.0%であった。調査時に少なかったのが震災前と同じ沿岸部北部の 8.0%で、多かったのが内陸部南部の 13.9%であった。震災前と調査時を比べると、沿岸部は 4.4 ポイント増加、内陸部は 6.5 ポイント増加していた。

地区	震災前 あり		震災後 あり		調査時 あり		
	人	%	人	%	人	%	
沿岸部	北部	4	2.9	10	7.3	11	8.0
	中央	7	7.8	13	14.4	11	12.2
	南部	11	12.0	12	13.0	12	13.0
	仙台	2	4.2	5	10.4	6	12.5
	小計	24	6.5	40	10.9	40	10.9
内陸部	北部	14	6.4	21	9.6	29	13.2
	南部	10	7.3	16	11.7	19	13.9
	仙台	2	2.8	3	4.2	6	8.5
	小計	26	6.1	40	9.4	54	12.6
合計	50	6.3	80	10.1	94	11.8	

③ 卒乳について

震災前から卒乳をしていないと回答したのは、全体で 43.2%であり、震災後は 40.7%、調査時は 38.5%と徐々に減っていた。

地区	震災前 していない		震災後 していない		調査時 していない		
	人	%	人	%	人	%	
沿岸部	北部	66	48.2	56	40.9	52	38.0
	中央	36	40.0	30	33.3	30	33.3
	南部	35	38.0	39	42.4	38	41.3
	仙台	19	39.6	17	35.4	13	27.1
	小計	156	42.5	142	38.7	133	36.2
内陸部	北部	91	41.6	90	41.1	89	40.6
	南部	68	49.6	66	48.2	60	43.8
	仙台	28	39.4	25	35.2	24	33.8
	小計	187	43.8	181	42.4	173	40.5
合計	343	43.2	323	40.7	306	38.5	

(6) 歯みがき指導等について

① 歯みがき指導について

歯みがき指導を受けたことがあると回答したのは、全体で 61.1%であり、地区でみ

ると少ないのは沿岸部北部と内陸部南部の 59.9%，多いのは沿岸部中央の 67.8%であった。

② 指導を受けた場所について

指導を受けた場所が多いのは、幼稚園・保育所の 30.4%であり、次に歯科医院の 25.6%であった。

地区	歯みがき指導あり		指導を受けた場所						
			歯科医院		市町村・保健所		幼稚園・保育所		
	人	%	人	%	人	%	人	%	
沿岸部	北部	82	59.9	29	21.2	31	22.6	39	28.5
	中央	61	67.8	24	26.7	16	17.8	31	34.4
	南部	57	62.0	21	22.8	21	22.8	32	34.8
	仙台	23	47.9	11	22.9	6	12.5	13	27.1
	小計	223	60.8	85	23.2	74	20.2	115	31.3
内陸部	北部	133	60.7	56	25.6	38	17.4	69	31.5
	南部	82	59.9	34	24.8	27	19.4	29	21.2
	仙台	47	66.2	28	39.4	6	8.5	28	39.4
	小計	262	61.4	118	27.6	71	16.6	126	29.5
合計	485	61.1	203	25.6	145	18.3	241	30.4	

7. 考察

(1) 1人あたりむし歯本数と歯科保健行動について

1人あたりむし歯本数は、沿岸部と内陸では大きな差はないが、北部や南部の各地区に分けると差があった。本数が最も少ない沿岸部中央地区は、フッ化物洗口や塗布の実施率が高く、定期受診をしている人が多かった。さらに、間食の回数では3回以上と回答した人が最も少なかった。逆に、本数が最も多い沿岸部北部地区は、間食を3回以上と回答した人が最も多かった。フッ化物応用の実施や間食の回数がむし歯の本数に影響していると思われた。

(2) 習癖について

震災の影響の有無を調査したが、指しゃぶり及び卒乳については、徐々に改善しており、震災の影響はあまりなかった。

爪かみについては、震災前よりも調査時の方が増加していたが、震災の影響なのかは、今回の調査からはわからなかった。

(3) 今後について

地域によりむし歯の罹患状況に大きな差があり、間食などの保健行動が要因として考えられ、健診や幼稚園・保育所での歯みがき等の生活指導や、歯科医院への定期受診、フッ化物応用の推進などの対策の一層の促進が必要であることがわかった。